



寸法を測った後、板を切る

丁寧な釘を打って組み立て作業を進める



城南中 技術科授業で体験

物づくりの魅力と苦勞

新緑会の指導受けて

新宮市立城南中学校は5日、1年生の技術科の授業で「紀南木材新緑会」の野中亮伸会長と会員4人を招いて「ファイル棚作り」を行った。はじめに生徒らは、使用する木の板について説明を受けた。杉の木の板は柔らかく使いやすいうことや、木の板には木表、木裏があり、組み立てる際に木裏が内側になるようにすることなどを理解し、さっそく作業に取り掛かった。

生徒らは指金などを使って寸法を測った後、ノコギリで板をカット。次いでカットした板を釘で固定していき、棚になるように形を作った。仕上げはヤスリで角や表面をなめらかに整え、約2時間の作業で完成させた。作業中は会員らにサポートを受けながらもくもくと作業を行っていた。

梅村美羽さんは「1つの物を作るのに、こんなに時間と手間が掛かっていることを知った。釘を打つとき曲がってしまったりして難しかったけど、ノコギリで板を切る作業はきれいに切れた時うれしかった」など感想を話した。

新緑会は、小学校を中心に出前授業を実施している。今回は同校の校長や教職員、保護者らの要望を受け、授業のサポートとして来校。生徒らに本格的な棚作りを教えた。



完成した「ファイル棚」